



上 JA北海道大会実行委員長挨拶 北海道中央会 樽井 功会長
 下左 意見表明 JA当麻 福井幸司代表理事組合長
 同中 意見表明 北海道農協青年部協議会 三角将広副会長
 同右 意見表明 JA北海道女性協議会 佐武敏子副会長

- 農協法公布記念日メッセージ
- 第31回JA北海道大会
- 組合員懇談会開催
- 一日ホクレン開催
- 2024JA北海道女性大会・家の光大会
- 第8回・9回・10回理事会議案等
- 全道JA青年部大会
- 2025年世相を占う
- JAグループ北海道農政活動強化に向けて(第6回)

- よつ葉ミルクフェアin Tokyo
- JAの存在意義を考えるシリーズ
- JA職員資格試験合格者
- JA北海道厚生連LINE友達募集
- JAカレッジ学生募集
- 宗谷青年農業者会議
- 「明るくすこやかに」枝幸の子どもを育てるPTA・町民の集いに牛乳提供
- JAグループ北海道 農政NEWSウェブサイトをリニューアル



北海道農業協同組合中央会
代表理事会長 樽井 功

農協法公布記念日にあたっての 組合員・役職員へのメッセージ

昭和22年11月19日に農業協同組合法（農協法）が公布され、今年で77年を迎えました。

戦後の食糧不足の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、「農業生産力の増進」と「農業者の経済的社会的地位の向上」を図り、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協法が制定され、農協が設立されました。

農協は「農業者による農業者のための組織」であり、協同組合原則に掲げる「自主・自立」「民主的運営」の基本に立ち、相互扶助の精神のもと、幾多の困難な状況を乗り越え、組合員の皆様の営農と生活の安定並びにより良い地域社会の実現を目指し、今日に至っております。

近年の農業・農村を取り巻く環境は一段と厳しさを増し、世界的な気候変動による猛暑や豪雨などによる各作物の収量および品質の低下、国際的な食料需給事情の変化や急激な円安の進行による生産資材の高止まりが農業経営に甚大な影響を与えております。

本年は、農政の憲法とも言われる食料・農業・農村基本法が改正され、国民一人一人の食料安全保障の確保と環境と調和のとれた食料システムが基本理念として位置付けられるなど、世界の食料需給の不安定化による輸入リスクの増大、環境問題等を踏まえた内容となっており、日本の農政は大きな転換点を迎えております。

かかる状況のもと、先般、3年に1度のJA北海道大会を開催し、将来ビジョンである「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」を育み、ひとと歩む」が確認されたところであります。

組合員・JA・連合会・中央会が各々の役割を再認識し、一丸となって大会議案を着実に実践していくことが社会からの要請に應えることにもなります。

最後になりますが、JAグループ北海道は、協同組合の理念と精神を事業の拠り所とし、今後とも組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とJAの発展に全力でサポートすることを誓い申し上げ、農協法公布記念日にあたってのメッセージと致します。



第31回JA北海道大会

力強い農業めざして実践

JAグループ北海道は11月20日、札幌コンベンションセンターで第31回JA北海道大会を開催しました。食料安全保障の強化と将来にわたる持続可能な北海道農業確立といった三つの議案を採択し、組合員やJA、連合会が自らの役割を認識した上で一丸となって取り組みを実践していくことを決議した。関係者の意思結集へ「協同の力」を確認する大会となった。

当組合からは、組合長を始め役員8人、女性部5人、職員8人が大会に参加し全ての議案に拍手を以って賛成の意思表示をしました。道内のJA役員約1,900人の出席とオンライン参加を合わせ総勢約3,000人がこの大会に参加しました。

大会議長は、日高管内JAみついの「澤田祐喜組合長」が務め来賓として祝辞を述べた「鈴木直道知事」は、北海道が日本の食料供給に果たす役割の大きさを強調し、皆が希望を持って営農を続けられるようJAと連携して取り組みを進めたいと述べられた。

今大会での将来ビジョンは「『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』」を育み、ひとと歩むを掲げ、大会議案の基本目標には①食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立②JAの組織基盤の強化と健全な経営基盤の確立③農業・食・JAへの理解醸成の3本柱とした。

また、従前は3年間の指針だったが、今大会においては、腰を据えて今後取り組みため6年間に延長し来年度から2030年度までの指針とし、3年後の次回大会（第32回大会）で中間見直しを行う事とした。

樽井会長は、冒頭のあいさつの中で食料・農業・農村基本法が改正され、食料安全保障強化と持続可能な道農業の確立へ、生産現場の行動変容の加速が必要だ。また議案は今後6年間JAグループ北海道が一丸となり実践すべく事項であり今大会が道農業に意義あるものとなることを祈念しますと述べられた。

大会議案は、以下3名の方より、「組織力を高めよう」とJA当麻福井組合長、「農地を維持し地域を守る」と道青協三角副会長、「JA応援を増やす」と道女性協佐武副会長の意見表明を経て、満場一致の拍手で承認された。



開会宣言前



鈴木知事祝辞



宗谷南参加者



宗谷南女性部参加者



末松氏記念講演



向井地会長挨拶



長谷川会長挨拶



ガンバロー三唱

記念講演「元農水事務次官「末松広行」氏
現在、東京農業大学総合研究所特命教授の肩書を持つ末松氏が記念講演を行った。食料安全保障の重要性が世界の共通認識となり、農業生産の確保が一層重要となると指摘。農業振興を魅力ある地域づくりにつなげるため、農業と関係する多様な事業「プラスアルファ」を考えようと呼びかけた。また、「カローリーだけ確保すればいい、安いものを作ればいいわけではない。農家の経済も豊かであることが大事」と強調した。「農林水産業をしっかりとやるという基本にプラスアルファが大切であり成功事例を参考に取り組みやすいものから取り組みましよう」と締めくくりました。

参院選比例候補「東野氏」励ます会

大会終了後、来夏の参院選でJAグループ組織内候補になっている東野秀樹氏を励ます会が開催された。政治団体「東野ひでき北海道後援会」（会長 向井地信之北海道政治連盟会長）が開催し、来賓あいさつに全国農業者農政運動組織連盟の長谷川浩敏会長が農業現場を熟知しJA組織の役員経験も生かして「これまで以上に組合員や役員に寄り添ってくださる」存在だとし、支援の輪を広げる重要性を訴えました。
また、現参議院議員の高橋はるみ氏、同じく岩本剛人氏、他道内選出の自民党国会議員も駆けつけ頑張ろう三唱により団結を誓いました。



組合員懇談会の開催



組合では、11月26に『組合員懇談会』を酪農振興センターで開催致しました。当日の出席組合員は18名で、役員8名、職員7名により午前10時30分から開始されました。

まず向井地組合長より開会の挨拶が行われ、本日の懇談会開催の趣旨は、令和7年度営農計画の作成要領、仮決算状況報告と酪農情勢等について提言致します。としたうえで、冒頭の挨拶の中で昨年は多額の奨励金があったが、今年は殆ど無い。乳価は20円程上がっているが、それ以上に資材、物価等の高騰、個体販売は下落しているが廃用は高値で推移しているので初妊牛を導入して、悪い牛は廃用にむけてほしいとお願いし、今後は家族形態での経営体は、長期的な目線で牛舎の新築を考えて、子どもたちが牛飼いを継ごうと思う環境を作って頂きたい。と述べた。

組合運営については、概ね昨年並みの収支予測ですが、酪農に歯止めが掛からず毎年数戸が生乳生産を止めているものの、個々の組合員が乳量増産で頑張っていることに感謝申し上げます。また部門別収支では、Aコープと授精所合わせて3,500万円の赤字に組合員からの賦課金で賄いきれない状況となっていることから、今般授精料金の値上げを止むを得ないものと判断させていただきました。

昨今物流問題が叫ばれていますが、家畜販売にも大きな影響が出ています。どこのJAも今お手上げ状態となっています。牛乳集荷は毎日の運送となりますが、労働者側から吹雪の日にも出勤となると経営者責任にも問われる事になります。組合では家畜の運搬業務を行っていますが、朝の暗いうちから夜の遅い時間までの働きになると労働基準法にも触れる可能性もあることから出来るだけ早い時間で市場の往復も必要となりますので、牛の積み下ろし時には、協力をお願いします。

来年は、3年に1度の役員改選です。理事と監事定数について1名ずつ減らした定款となっており、地区割役員定数について理事会議案とし決定したいと述べました。

これから議題に沿って進めますので忌憚のないご意見を頂きたいと思えます。と述べ議題説明となりました。

議題1、令和7年度営農計画作成の基本方針の説明で授精料金の改定したことによる作成上の留意。

議題2、令和6年度上半期の仮決算状況は、貸倒引当金の内容説明や販売の収益増加の要因。

議題3、酪農情勢等について、昨今の情勢を報告しました。

最後に組合長から、人は脳に余裕が無いとパニックになってしまう、仕事も遊びも余裕を持って欲しいですが、自分の経営はしっかり守って頂きたい。組合は、枝幸の酪農、組合員の立場、皆さんの経営安定と生活の豊かさを夢見て執行者としてしっかり取り組んで行きたいと思えますので、酪農が大変だと言わないで農業者のプライドをしっかり持って頂きたい。と締めくくりました。

〈一日ホクレン開催〉

ホクレン稚内支所主催による一日ホクレンが11月27日酪農振興センターで3年ぶりに開催された。

開催の目的は、経済事業に係る課題解決方策の検討、意見交換を通して、JA・生産者・ホクレン間の意思疎通、連携強化を図ることにより事業促進の礎とする。

当日は、JA役員・青年部部长・女性部部长・JA各部長等にホクレンからは、支所長・営農支援室他、各課の課長を交えて行われた。

ホクレンからは、各種事業の進捗等担当課長から報告された後、直近の酪農情勢を踏まえたテーマを設定し、①生乳の需要動向、今後の見通し、指定団体の取組について②個体販売の今後の見通し③資料・肥料・燃料の今後の情勢、次年度の営農計画に活かせる情報について④労働力不足への対応として北農5連サポーター事業の活用の促進、スマート農業（ホクレンRTKシステム）による労働力確保への取り組み等をテーマに意見交換が行われました。



ホクレン近藤支所長開会の挨拶



ホクレン担当課長とJA関係者



向井地組合長開会の挨拶

2024年度JA北海道女性大会・ 北海道家の光大会

『家の光記事活用体験発表』

大塚真央さん最優秀賞受賞！！

JA北海道女性協議会は、11月7日、8日札幌プリンスホテルで「2024年度JA北海道女性大会・北海道家の光大会」を開催しました。全道から女性部員約400名が一堂に会し、当組合からは、松井幸子さんと大塚真央さん両副部長が参加しました。大会初日は家の光本誌の持ち寄り読書会や「料理を通して人を育てる」をテーマとした講演会、家の光を通じた女性部活動や家族交流などの事例を発表する『家の光記事活用体験発表』と最後に全体懇親会で交流を深めました。

開会は、組織綱領を読み上げた後、主催者の中川苗保子会長より「能登半島地震では、義援金による助け合いの気持ちで部員が団結した。今後も力を合わせて頑張っていくでしょう。」と述べた。祝辞は、北海道水戸部農政部長、家の光協会木下代表理事専務、北海道青年部協議会高見会長がお祝いを述べられました。

「家の光」記事活用発表は全道4地区の代表が発表し、「大塚真央」さんが子供が体調を崩した時、「健康に気を付けた食事やストレスをためない過ごし方の記事で生活を明るくしてくれた」事を強調。また料理のレシピの記事を使って誰でも参加出来る料理の会を開き、「イベントを企画、実行できた」事を『私の支え』と題し発表し見事最優秀賞に輝きました。大塚さんは、令和7年2月に横浜市で開かれる「全国家の光大会」に道代表として出場します。

翌8日は、新企画である『農業ガールズコレクションin北海道』が開かれ部員がランウェイを歩き、各地の特産品をプロモーションする内容に会場は大いに盛り上がり2日間の大会に幕を閉じました。大塚さん、女性部の皆様おめでとうございます。



発表中の大塚さん

第9回理事会 開催日令和6年11月18日

第8回理事会 開催日令和6年10月25日

【決議事項】

1. 令和7年度営農契約書策定の基本方針及び作成要領について
2. 正組合員資格取得について
3. 令和6年度自己査定に係る担保評価基準について
4. 懇談会の開催について

【協議事項】

1. クミカン計画・実績見込対比について

【報告事項】

1. 9月末クミカン実績対比について
2. 9月末各部署取扱高及び実績報告について
3. 令和6年度決算見込（9月末基準）について

【決議事項】

1. 令和7年度授精料金の改定について



第10回理事会 開催日令和6年11月27日

【決議事項】

1. 事務引継規程の改正について
2. 職員就業規則の改正について
3. 農協施設貸借契約について
4. 資金の貸付について
5. アグリサポート枝幸との農協機械等
賃貸借契約内容について
6. アグリサポート枝幸との除雪業務
委託契約について
7. 枝幸ウインドファームに係わる意見書
の提出について

【協議事項】

1. クミカン計画・実績見込対比について

【監査関連報告事項】

1. 内部監査報告について
2. 内部監査受託に係る報告について

【報告事項】

1. 理事のクミカン供給限度額の変更報告について
2. 10月末クミカン実績対比について
3. 組合員の異動状況について
4. 10月末各部署取扱高及び実績報告について
5. 貸付金実行報告について
6. 令和6年度決算見込（10月末基準）について



力強い農業へ仲間と連帯

全道JA青年部大会

北海道農協青年部連絡協議会（JA道青協）は12月5日6日の2日間の日程で札幌パークホテルにて第73回全道JA青年部大会が約800人の参加のもと開催された。当組合からは、高橋青年部部长と佐藤良介氏、戸澤慧氏の3名が参加しました。

大会では、組織綱領を読み上げた後、協議会の高見章太会長が「魅力ある農業に向かつて地区会長の皆様と精力的な活動の盟友の皆様とも連携して、力強い農業を目指したい」と述べた。大会初日は、12地区代表が就農の経緯や青年部への思いを語る「青年の主張大会」、青年部の組織的な取り組みを紹介する「活動実績発表大会」が行われ、「青年の主張大会」では6地区の代表者がテーマに食育や物流問題、新規就農体験、青年部活動が取り上げられ発表しました。食育では「大人の食育を進め、いずれ社会教育の一環に」と消費者理解を広げる新たな方策を提案した。青年部活動では「仲間と供に新たな農業の可能性を探ることが、これからの農業経営の発展に不可欠」と訴えた。

「活動実績発表大会」では6地区の代表者が登壇した。サツマイモを使った食農教育や乳製品の消費拡大運動として地元洋食店との連携によるカリー商品の開発、鶏糞を利用して減肥につなげる取り組みなどが紹介された。

この両大会に先立ち家の光協会による「JA青年組織が農政活動をする理由」と題し魚谷副局長による学習会が行われた。



当日、夕刻より行われた盟友を囲んでの懇親会が開催され、「アームレスリング大会」は、大いに盛り上がり75歳以下はJA十勝清水町の堀遠太さん、無差別級では、JA幕別町の松岡流生さんが優勝した。

また、道農業のPR役となる「純農Boy北海道オーディション」ではグランプリにJA道央の河野慎さんが選ばれた。このオーディションには「佐藤良介」さんも参加しましたが惜しくも・・・

情報発信力を競う「動画で発信！農の魅力コンテスト」では、JAるもいが最優秀賞を受賞しました。

基調講演は、札幌の教育・翻訳事業会社オシロバード執行役員専務「コチエフ・アレクサンダー」氏より北海道農業について「農畜産物に土地や品種の情報も添え、ストーリー性や臨場感を高めた発信が大切」と述べられました。

一方、前日に行われた「青年の主張発表大会」ではJAくしろ丹頂の瀧澤史登さんの「2024年問題の物流」に関する働き方に着目し、農業側も積極的に貢献していくことが必要だと訴えた事が評価され最優秀賞、「青年部活動実績大会」ではJATA張市の工藤凌司さんの青年部活動をメロンに特化し、活性化できたことの実験を報告。「ポリシーブックを見直し圃場や育苗ハウスの見学を積極的に行うことで部員の意識が変わった」と述べ、成果につながった点が評され、最優秀賞の2名が決定しました。

2人は、1月に札幌で開かれる東北・北海道ブロック大会に道代表として出場が決まりました。

2025年 世相を占う

経済

安全保障や温暖化政策を基本としたSDGsを提唱する直近の課題が目白押しの昨今ですが、歴史を振り返れば世界規模で異常気象の被害が記録に残ります。また、リクルート事件やベルリンの壁崩壊も同星盤。この年、世界の歴史が大きく動いたのです。政変から国民意識にも変化が起きる暗示があります。

今年は、乙巳（きのとみ）二黒土星（じこくどせい）の星盤。政治と経済とのバランスシートにズレが生じるかも。特に卯年から始まった海外拠点の移し替えは、新たな経済成長に結びつく兆しです。十干の「乙（きのと）」は力強く成長する植物のかたち。「軋る（きしる）」の意味があり、十二支の「巳」は火に属し「圮・巳」はつぐ、すでにと解します。様々に変貌して新しい生活環境に入る動きを象徴。そして「二黒土星」は「大地」を象意とし、万物を差別なく育成する星。つまり熟成と繁栄の土台作りを表すのです。

国政が不安定でも国民の「稼ぐ力」は無限大。内需を強化し国内へ軸足を置いた政策が求められる今期、日本経済の底力を発揮すべき時が来ます。異業種との業務提携、地場産業の品質向上や得意性を発揮し、活発な資本投資や多くの設備が考えられます。ローバル化と技術革新は今年も続きます。



社会・一般

「今の若いものは」とつぶやく間もなくAI時代に。紙幣も変わりキャッシュレス時代へ突入です。今年は、二黒星の「熟成」の周期にあり、昨年芽生えた斬新なアイデアや技術は景気の恩恵を受けて成長し、公益の福祉業界などはさらに質の向上を余儀なくされる。社会の全体の空気は「量から質へ」。

日本の文化や歴史を意識した商品開発、伝統のモノ作りを受け継ぎながら高性能を売るなど、過去の経験から学ぶ知恵が日本の底力になります。

自然

思いがけない大地震で始まった辰年。自然や日常生活が一瞬にして修羅場と化してしまうのが天災です。今年の「乙」も「巳」も左右に不安定に揺れ成長する種子の胎。しかし、二黒は母なる盤石な大地の星。例え揺れてもゆっくりと元に戻り、新しい環境で四季が巡るのではないのでしょうか。

特に今年は、「背反作用」が働き、不益から有益なものに変える自然界の調整が働く暗示の星盤です。つまり、「温暖化」という環境に合わせた新しい取り組みが必要。ただ、「巳」は陽気の胎動が盛んな象意なので、雷や竜巻、豪雨や大雪風水害が起こりやすくなります。その為、日照不足からのカビや感染症など環境衛生問題に留意です。万事を行政の問題とせず、自らの体験情報を生かす必要があります。



JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

第6回「東野ひでき北海道後援会の活動経過」について

過去の参議院選挙(比例代表)での危機感を踏まえ、改めて組織選挙の意義を共有の上、候補者の認知度を高め、組織力の結集による運動を徹底することが大切です。

北海道後援会では、JA役職員、組合員、青年部・女性部盟友、各連合会・関係機関など東野ひでき氏の応援の輪を広げていくために、農政学習会等を通じて「なかまづくり運動」を展開してきました。

「ひできのなかまづくり運動」

「ひ」…ひとりでも多く! 「で」…できることから! 「き」…きょうから始めよう!

各々が、応援を依頼する「なかま」を確実に2名以上特定し、さらに、その「なかま」1名につき、新たに2名以上の「なかま」を特定し、「なかま」を広げていきましょう。

令和6年3月29日に東野ひでき北海道後援会を設立して以降、主に以下の取り組みを実施しております。

- JA総会・総代会にて東野の動画映写や組織結集に向けた決議等を実施。
- JA・連合会にて推薦手続きを完了。
- 道連常勤役員・地区会長他によるJA等巡回。
- 東野による全国連・全国機関、都府県連合会・JA等巡回を実施。
- 東野による道内各連合会、関係機関、取引先、JA等巡回(励ます会)を実施。
- 農政学習会の実施。
- 各種資料の活用。
(農政学習教材(資料・動画)、東野ひでき紹介動画、室内掲示用ポスター、リーフレット、運動推進ステッカー、名刺貼付用シールなど)
- JA広報誌での連載と北海道農政ジャーナルの発行。
- SNS(HP、LINE、Instagram、YouTube、Facebook)による活動報告。
- 青年部・女性部による東野ひでき親衛隊「動画大作戦」の実施。(毎月1回YouTube配信)



今後は、上記の取り組みに加え、屋外用政治活動用ポスターの掲示(野立て看板の設置)、東野出席のもと道内12地区の巡回等や、青年・女性組織の道・地区・単組段階での推薦手続き等を実施していきます。

農業・JAを取り巻く厳しい状況下において、JAグループ北海道の政策提案を実現し、組合員の営農と生活を守るためには政治力の強化が極めて重要であります。

農政学習運動等を通じて組織選挙の意義を共有し、引き続き「なかまづくり運動」を広げていきましょう!

【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年まで連載いたします。次回(第7回)は、「業界を代表する候補者を選ぶことの重要性」について報告します。

東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちらから



東野ひでき北海道後援会



よつ葉ミルクフェア in Tokyo —北海道からのメッセージ



よつ葉乳業(株)では、11月1日~4日、東京都恵比寿ガーデンプレイス内よつ葉ミルクプレイス前にて「よつ葉ミルクフェア in Tokyo」を開催しました。目的は首都圏の乳製品購入に対する想いを知り、北海道の酪農家の生乳生産に対する想いを伝えるため、そして乳製品の消費拡大を最大のメインとして行われました。消費者に対するイベントは2日間行われ、宗谷、十勝、根釧、北見管内の7JAより、生産者12名(酪農女性)、JA担当者7名の参加となり、管内からはJA東宗谷と当組合からは『藤山時恵』さんが参加しました。

11月1日に東京へ入り、早速よつ葉乳業東京支店にて意見交換会や牛乳の飲み比べなどを行い、首都圏のスーパーにて乳製品の売れ筋状況などを視察し、翌2日はよつ葉ミルクプレイス前にてメインの消費拡大運動を行いました。子供たちによる模擬搾乳体験、牛乳4種の飲み比べ、牧場の仕事紹介、応援メッセージカードの4つのブースがあり、当日の天気予報が台風直撃予報でしたがイベント中は雨が少し降る程度で無事開催することが出来ました。イベント開催中に宗谷ゴードチーズの試食会を行い、「とてもおいしい」と相次いで言っただき、数量限定で宗谷ゴードチーズを販売したところ即完売となる程人気で、イベント自体も人が途切れることなく大変な賑わいの中、盛会に終了致しました。

藤山さんは、「とても忙しかったが消費者の生の声を聞くことは今までにない経験で楽しかったです。また意見交換会で他のJAの皆さん、よつ葉スタッフの皆さんともお話し出来てとても良い経験をさせて頂きありがとうございました。」と感想を述べられました。



JAの存在意義を考えるシリーズ 第5回 「組合員勘定制度」

昭和20年代頃、本道の農業者の借入金依存度は高いものであった。営農資金などの短期の運転資金については、農業手形制度が1958（昭和33）年に廃止となり、それに代わって、雑穀・澱粉等の入庫品担保融資などで賄われるようになってきた。

1961（昭和36）年釧路地区のある農協において営農資金供給としての組合員勘定制度が始まった。この骨子は次の通りである。

①農家組合員と農協との一切の経済取引を「組合員勘定」に集約する。

②利用するには、農家組合員は営農計画を提出し年間収入計画の範囲内で営農・生活資金等の短期の融通を行う。

③農家の収入は「組合員勘定」に振り込む

④貸越分については、金利を支払う。

⑤以上の内容を基礎に約定を締結するが場合によっては、供給を停止する。

この制度は、本道が府県に比べて農家経済にあって農業収入の割合が高いこと、すでに農協が個々の農家組合員の経済状況を深く把握していたこと、農家組合員と農協との結びつきが強かったこと等を背景に数年の間で全道に広まった。

組合員勘定制度は、組合員にとって営農・生活資金の安定化に寄与し、農協にとっては単に経理方式にとどまらず、経済部門と信用部門の再編や営農指導体制と連動させたものである。

「考えるシリーズは6回連載します」
「次回が最終回となります」



JA職員資格試験合格者発表

令和6年下記職員が「初級」資格試験に見事合格しましたのでお知らせします。

おめでとうございます。

営農部営農係
(兼) 管理部管理係
佐賀明子さん

営農部営農係
鳥谷部公生さん



JA北海道厚生連 配置薬課

LINE 友だち 募集中!

配置薬に関する最新情報や健康に関するお役立ち情報をお届け!

友だち登録方法

QRコードから

LINEアプリの「お友だち追加」→「QRコード」から右のQRコードをスキャンしてご登録ください。

ID検索から

LINEアプリの「お友だち追加」→「ID/電話番号」から下のLINE IDを入力してご登録ください。

LINE ID @194igxju

登録してね!

配置薬のこと

配置薬とはご家庭に医薬品などをお預けし、ご利用になった商品のみご精算させていただく「先月後利」のシステムです。家庭用常備薬に加えて、保健康、健康食品、介護用品も取り扱っており、正しい薬の知識や健康情報の提供をしております。利用者の「健康」と「安心」のお役に立てるよう取り組んでいます。

新商品の情報

新しく取扱いを開始した商品・おすすめ商品をご紹介します。健康・美肌に役に立つ商品を取り揃えています。

健康に関する情報

日頃の健康づくりに役立つ正しい知識や季節性疾患の予防法など、日々の生活に取り入れやすい健康情報をお届けしています。疾患に合わせたおすすめの商品も紹介中です。

JAへの就職希望者100%就職 (令和5年度実績)

令和7年度第3回学生募集

- 定員40名 ●男女共学 ●1カ年●寮完備(個室)●通学制開始
- 受験資格: 満27歳未満(令和6年4月1日現在)/大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日: 令和7年2月2日(日) ●願書受付: 令和7年1月6日(月)~1月24日(金)消印有効
- オープンキャンパス随時開催中

JAグループ職員養成校

JAカレッジ

一般財団法人
北海道農業協同組合学校
〒069-0834 江別市文京台東町 43-1
☎0120-918-417 【JAカレッジ】で検索

令和7年度より
通学制開始

枝幸に若者集い

酪農への思い 研究成果発表

宗谷4Hクラブ連絡協議会、宗谷総合振興局では、11月19日中央コミセンで今年度の宗谷青年農業者会議を開き、宗谷管内から約50人参加された。

日頃の実践活動で身に付けた農業技術・経営改善の知識などの情報交換を行い、農業経営者として必要な資質の向上を目指すとともに、青年農業者からのメッセージを広く社会に発信することで宗谷管内の新しい農業及び農村づくりに資する目的で開催された。

開会にあたり4Hクラブ綱領朗唱により掲げられた4つの目標の再確認を行い、続いて西野敏郎宗谷総合振興局地域産業担当部長が「今後の農業経営や様々な活動に実りあるものに」と述べ、枝幸町今井靖雄副町長と向井地組合長が歓迎と今後の活躍への期待を込めて挨拶された。

成果発表については、始めにアグリメッセイジ部門では、枝幸4Hクラブ所属就農2年目の「開地希望」氏による『cow happy is, i, m, happy』と題し学生生活を終え実家に戻り学んだ知識を活かして経営をさらに向上させようとしたものの、昨年8月に伝染病のサルモネラ菌の発症により牛飼いとしてあるべき姿を改めて考えさせられた。

牛を健康に大切に飼うことで人の負担が減り牛も幸せになることを学ばせてもらった事を、発表しました。

一方、北宗谷4Hクラブ所属の「竹田考汰」氏によるプロジェクト発表は、『スマート農業技術の活用による労働負担軽減に向けた取組』と題し肉体的な軽減が課題の中でドローン活用を用いた牛追いの検証をし、一定の労働力軽減効果が得られたと発表し、今後は、鹿の追い払いや植生の確認などの使用も検討していく旨を述べ、また牧草収穫作業に対しては、自動操舵機能を使用した場合での労働時間の減少量や燃料の使用量についても調査していることも発表された。

審査の結果、両者ともに最優秀賞を受賞し、令和7年1月28日、29日札幌市で開催の北海道青年農業者会議に派遣されることになりました。

お二人ともに、札幌市での健闘をご祈念申し上げます。

令和6年度「明るくすこやかに」枝幸の子どもを育てるPTA・町民の集いに牛乳の提供

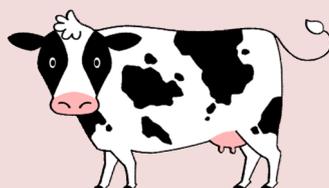
枝幸町PTA連合会と枝幸町青少年育成ネットワークでは、11月8日中央コミセンにて、枝幸町の宝である子どもたちの心身とも健やかな成長を地域全体で行うための意識啓発のための機会として

『「明るくすこやかに」枝幸の子どもを育てるPTA・町民の集い』を昨年引き続き開催しました。

教育講演会は、元枝幸高校教員として活躍され、現在は枝幸町教育支援センター長を務められている、「天田光彦」氏を講師に講演されました。

当日は、関係者含めて120名の参集で盛会裏に終了いたしました。

なお、当組合からは、子ども達が健やかに育ってくれることと、牛乳消費拡大を願い参加者全員に牛乳を無料配布しました。



会員限定

！ IDとパスワードが必要です

JA GROUP HOKKAIDO 営農農政 NEWS WEBSITE

JAグループ北海道 農政NEWSウェブサイトがリニューアル！

このたび、JAグループ北海道では、農政NEWSウェブサイトを大きくリニューアルし、「営農・農政NEWSウェブサイト」とし、営農関連情報も含め、より多くの情報を掲載し、レイアウトも見やすくいたしました。

今後も、JA 役職員・組合員の皆様のために、JAグループ北海道の農政運動に関する取り組みや農業情勢等の情報を発信してまいりますので、更新通知の届く公式 LINE に登録いただき、ウェブサイトの情報をご確認願います。

【営農・農政NEWSウェブサイト掲載イメージ】



【掲載内容】

- ①各対策本部委員会 基本農政・米・畑青・酪畜の対策委員会概要
- ②中央要請 JAグループ北海道で実施した要請運動の概要、要請書など
- ③情勢資料 対策本部委員会で配布された資料など
- ④政策提案・めざす姿 対策本部委員会で決定された政策提案等の資料
- ⑤営農・農政情報 JAグループ北海道、農水省、北海道に関するニュース
- ⑥各種政策・⑦参考資料 農水省の政策や補助事業、制度等に関するデータ

【接続方法】

右のQRコードから公式LINEを友だち登録いただき、ご挨拶のメッセージ内のリンクからアクセス願います。

本件に関するお問い合わせは、JA北海道中央会 共通広報まで
メールアドレス：kouhou@chuo.ja-hokkaido.gr.jp

